

〈共同研究〉 称名寺聖教

『法事讚光明抄』について (三)

—「少善根」「随縁雑善」理解に対する一考察と卷三翻刻—

佐竹真城・赤松信映・西村慶哉・井上慶淳

要旨

『法事讚光明抄』四卷は神奈川県称名寺所蔵(神奈川県立金沢文庫管理)になる国宝称名寺聖教の中の一書であり、善導(六一三—六八一)撰『法事讚』二卷を註釈したものである。撰者は法然(一一三三—一二二二)の門下の一人である覚明房長西(一一八四—一二六六)である。全四卷のうち卷一・二については概要とその翻刻を報告済みであり、本稿はその続編にあたり、卷三の翻刻ならびにその内容について一考を加え、中世浄土教研究の進展に資することを目的とする。

キーワード 法然 覚明房長西 九品寺流 少善根 随縁雑善

はじめに

小論は、「〈共同研究〉称名寺聖教『法事讚光明抄』について(二)概要と卷一翻刻¹⁾」および「〈共同研究〉称名寺聖教『法事讚光明抄』について(二)所引の『阿弥陀経』註釈書からみる展望と卷二翻刻²⁾」と題して発表した論攷の続編であり、称名寺聖教『法事讚光明抄』卷三の翻刻を掲載するものである。したがって、概要ならびに卷一・二の翻刻は前稿を参照願いたい。また、卷三の翻刻を紹介するにあたって、九品寺流の諸師における「少善根」「随縁雑善」の理解について考察しておきたい。

「少善根」「随縁雑善」理解に対する一考察(井上)

『法事讚疑芥』卷三には、『法事讚』卷下の転経分第一段の「捨彼莊嚴」(『聖典全書』一、八三〇頁)から第十段の「貪瞋即是身三業」(『同』一、八四四頁)までが釈されている。このなか注目されるのが、『阿弥陀経』における少善根と多善根に関する議論、所謂「嫌貶開示」についてである。『法事讚疑芥』における「嫌貶開示」理解については、既に佐竹真城氏が指摘しているように、良忠(一一九九—一二八六)撰『法事讚私記』との関係が窺える。すなわち、良忠が『法事讚私記』において「或人云」として引用する理解が、『法事讚疑芥』卷三の記述とほとんど一致するのである。「或人」とは長西のことを指していると考えられるが、その理解に対して良忠は、二つの点から批判を加えており、結果的に長西と良忠の「少善根」に対する理解に相違が生じていることがわかる。

この点について、九品寺流と鎮西義とで立場を異にする二師の間で理解が異なるのは、ある意味当然ともいえる。しかしここで注目すべきなのが、九品寺流において長西の門弟と位置づけられている人師の理解においても、長西の理解とは多くの違いが見られることである。本稿ではその相違を明らかにすることで九品寺流、ひいては法然門下研究における一視座を提供したい。具体的には『阿弥陀経』所説の「少善根」、そしてそれを受けて『法事讚』に説かれる「随縁雑善」の語がどのように理解されていたのかを、各師の『法事讚』註釈書の記述から検討する。

なお、長西には多くの門弟がいたことが諸系図から知られるが、そのなか今回は、長西の直弟子に位置づけられている念空道教(?!—一二八七)・阿弥陀房(一二〇〇—一二八七)に加え、孫弟子に位置づけられる性仙導空(生没年不明)を取り上げる。

法然の理解

九品寺流諸師の理解を検討するにあたって、法然の解釈を確認してこう。「選択集」多善根章では、はじめに『阿弥陀経』「嫌貶開示」と『法事讃』「随縁雑善」の文を引いたのち、私積において以下のように述べられている。

私云、「不_レ可_レ下_レ以_レ少善根福德因縁_一得_レ生_二彼国_一者、諸余雑行者難_レ生_二彼国_一。故云_二「随縁雑善恐難生_一」。「少善根」者对_二多善根_一之言也。然_レ則_レ雑善_ハ是_レ少善根也、念仏_ハ是多善根也。

(『聖典全書』一、一三一七頁)

法然は、少善根_ハ雑行_ハ雑善とし、多善根_ハ念仏と理解していることがわかる。ここで確認しておきたいのは、『阿弥陀経』の「少善根」も、『法事讃』の「随縁雑善」も、法然においては同じく雑行と理解されていることである。これを前提に、以下において九品寺流の諸師の「少善根」「随縁雑善」の理解を窺っていくこととする。

長西の理解

まず「少善根」について、長西は先達の理解として諸師の説を引用した後、以下の問答を設けている。

尋_二云_一、付_二「不可以少善根」等之文_一、諸師作_二異解_一有_二何由_一歟。
答_二於所釈經文分明_一、諸師全不_レ異_レ解。文相幽玄_一、異解不同也。而今雖_レ說_二少善不生_一、未_レ明_二少善之相_一。而今案_二此文_一意_二有_二其二_一意_一。

一_レ次下說_二執持名号得生_一。故知_二指_二名号外自余諸善_一、云_二少善不生_一歟。二_レ說_二一心不乱即得往生_一。故知_二設雖_二執持名号_一、非_二心不乱_一云_二少善不生_一歟。有_二此道理_一故_二諸師各異_レ解也。

又雖_二余行_一、一心不乱_レ行_レ之即得往生也。何_二云_二少善不生_一歟。又雖_二名号_一、非_二一心不乱_レ可_レ生_一。何_二云_二即得往生_一歟。故知_二「經_一」意、大約_二安心_一、厚薄_一說_二少善不生_一也。然_レ則_レ人師_レ解_二多分約_一、安心_一、淺深_一、積_二少善不生_一之義_一也。(卷三、二二丁左)

ここでは「少善根」として、

(一)：執持名号以外の諸善

(二)：非一心不乱の執持名号

という二義が挙げられている。なお、長西における「執持名号」とは必ずしも称名念仏に限らないことに注意が必要である。よってここでは広い意味での念仏を指して「執持名号」と述べていると考えられるが、注目されるのは、第二義として、念仏であっても一心不乱でなければ「少善根」であるのみならず点である。次に「随縁雑善」については、

疑_二云_一、「随縁」之義如何。答_二隨機_一縁也。八万正教、共隨縁教也。然_レ而今別取_二法_一、指_二其外_一云_二隨縁_一也。

又「雑善」者何等歟。答_二念仏外諸行也。此即_レ正雜_二三行_一中雑行也。(卷三、二四丁左)

と述べられている。ここでは「随縁雑善」は念仏以外の諸行、すなわち雑行を指すと理解されていることがわかる。

以上、長西の理解の特徴としては、「少善根」に二義を示し、執持名号を必ずしも多善根として取らない点にあるといえる。

長西の門弟における理解

阿弥陀房の理解

次に阿弥陀房の理解について見ていこう。既に指摘されているように、長西の著作群である〈浄土疑芥〉¹⁰には、所々に「私云…」として述べられる箇所が見られるが、これは阿弥陀房の解釈であると考えられて

いる。¹¹そしてその理解は、直前にある長西のものと異なる場合も多く、『法事讃疑芥』における「少善根」や「随縁雑善」の解釈についても、長西とは異なる理解が示されている。先ほど確認した、長西が「少善根」に二義を挙げる文の直後に、以下の記述が見られる。

私云、付「随縁雑善恐難生」等之文、料簡之有「四意」歟。謂、一、余行疎雑、故云不生。如「深心下積」雖可廻向得生衆名疎雑行也。二、余行散心、故云不生。如「三上品上生積」聞經十二部心散故滅罪輕等也。此二義於「具足三心人、与奪之意、且云不生也。又『経』説得生者云「一心不乱」、積云「専復専」等。此約「行相」積得生也。三、余行「不具三心者」、云「不生」。如「元照」「小経疏」云「无正信廻向願求」等也。四、念仏「不具三心者」、云「不生」。如「智円」「小経疏」云「等閑発願散乱称名」也。此二義於「不具三心人、以「実義」云「不生也。又「礼讚」序「積不生者」、云「若欲捨専修雑業者希得一二……千中无一」等、此約「安心」、云「不生也。又此四義中、初二義假令義也、容有義也。後二義真実義也、必然義也。」

（卷三、二二丁左―二二丁右）

この直前で長西は「少善根」を積しているが、「随縁雑善」についての解釈が述べてられていることから、阿弥陀房は「少善根」と「随縁雑善」を重ねて理解していると考えられる。その証として、長西が「随縁雑善」を積している箇所にもほとんど同文が示されている。ここで、阿弥陀房は不生の理由について四義を挙げている。すなわち、

- (一) 余行は疎雑なるが故に不生
- (二) 余行は散心なるが故に不生
- (三) 余行には不具三心の者を挙げて不生
- (四) 念仏にも不具三心の者を挙げて不生

である。このうち(一)(二)については假令・容有の義、(三)(四)の義が真実・必然の義であるとする。ここでの假令・容有の義が具体的にどういった意なのかは一考の余地があるが、(三)(四)を真実義であるとする点に鑑みると、阿弥陀房は余行・念仏どちらにおいても、不具三心の者は不生であると理解していると考えられる。つまり、「不可以少善根」とは、不具三心の行を指しているということになる。上において長西は、念仏であっても一心不乱でなければ、少善根の行であり不生であるとしていた。一方で阿弥陀房は、念仏において不具三心の行を不生であるとしており、相違が見られる。また長西が「随縁雑善」の文を積した後には、阿弥陀房は以下のように述べている。

私云、(中略)若爾者、釈文「極楽无為涅槃界」者讚「嘆所生淨土」。「随縁雑善」者約「往生修因」。謂「雑」者能雑也。「善」者所雑也。付「能雑」有「三」。一、三業善行、当「礼讚」。四修中无余修下「不雑余業」。二、身口衆務惡業、当「无間修下」不「以余噴業來問」。三、意地妄念、当「无間修下」不「以貪嗔煩惱來問」也。「善」者念仏善也。「恐難生」者当「一二三五乃至千中无一」也。意云、「観経」義「三念仏諸行」、広積「往生行」。「礼讚」一行、付「三業念仏一行」勸進。故「簡」余行惡業等。今付「名号」一行、云「随縁雑善恐難生」、对「執名号之一法」故。又「経」云「不乱」、積「専復専」。若不「専復専」、設「執持」名号「往生不可」歟。

（卷三、二五丁左）

ここでは「雑善」の「雑」は能雑、「善」は所雑とされ、所雑の善とは念仏の善のことと理解されている。つまりここでの「雑善」とは、法然や長西のように雑行自体を指しているのではなく、念仏という「善」の修し方を指して「雑」としているのである。具体的には四修のうち、(一)無余修の「不雑余業」、(二)無間修の「不以余噴業來問」、(三)無間修の

「不以貪嗔煩惱來問」が挙げられている。「少善根」積の直下では三心の不具による不生の義が示されていたが、ここでは四修ではない修し方による不生として理解されている。なお、この直後に前に引用した四義が再び述べられている。

道教の理解

道教撰『法事讚見聞集』の断簡と考えられている『阿弥陀経抄』¹³には以下の記述が見られる。

今、経文証願行二門。從「又舍利衆生者」至「得生彼国」勸發願。從「舍利弗」至「故証此言」勸行門。故分今文段以「少善根」文屬發願末。明知、此言為勸發願也。意云、為往生極樂、可發菩提願。无願、人天修因不生也。非可評成生雜因之諸行也。

(「能島」二〇頁、四丁裏)

ここではまず、『阿弥陀経』には願行二門が説かれていとされる。その中「又舍利弗衆生者」から「得生彼国」までは發願を勧める箇所のみであるから、「少善根」等の文は菩提心の願を發することを勧める文であると理解している。そして菩提心の願が無ければ人天の善根であり不生とする。故に、道教において「少善根」とは人天の善根を意味しており、それはすなわち無菩提心の行と考えられていたことがわかる。

続けて道教は、

難云、今師下『讚』云「隨緣雜善恐難生」。此積引上「少善根」、來云「隨緣雜善」。是即正雜二行中嫌雜行、云「難生」。雜行者不限人天修因、正行外一切諸行。(中略)是等積惣指念仏外諸行云「少善根」。雜善別不限人天善乎。

(「能島」二二頁)

と難を立てている。すなわち、『法事讚』「隨緣雜善恐難生」とは『阿弥陀経』「少善根」を受けているのだから、「少善根」が人天の善根であれば、「隨緣雜善」も人天の善根になってしまう。しかし「雜善」とは雜行のことであり、人天の善根に限られるものではないという難である。それに対しては、

會云、(中略)又下云、「人天少善尚難弁、何況無為証六通」^上。此『讚』意云、衆生流轉之間人天少善根尚難弁。故多受三途苦。況生無為淨土証六通乎。是則引經文「少善根福德因緣」、來云三人受少善。引經文七日一心不乱行生彼国。□□益、來云「何況無為」也。

(「能島」二〇頁)

と答えている。『法事讚』の「人天少善尚難弁、何況無為証六通」の文言について、「人天少善」は『阿弥陀経』「少善根福德因緣」に対応し、「何況無為」は一心不乱の得生に対応するのだとして会通をはかっている。そして続けて、

准此積「隨緣雜善」言、可謂二人□□根。

(「能島」二二頁)

と結論づけている。ここでは「人□□根」と二字の湮滅があるもの、ここまでの議論に鑑みれば「人天善根」とあったことが推測される。すなわち道教においては、「少善根」も「隨緣雜善」も共に人天への生因となる善根のことを意味していることがわかる。

導空の理解

導空撰『法事讚下管見鈔』では、『法事讚疑芥』にも引用されている元照『阿弥陀経疏』「正信廻向願求」の文が引用された後、以下のよう

に述べられている。解曰、是无菩提心諸善積「少善根」也。今師下釈云「人天少

				少善根	随縁雑善
法然	称名念仏以外の雑行	称名念仏以外の雑行			
長西	(一)念仏以外の雑行 (二)非一心不乱の念仏	念仏以外の雑行			
阿弥陀房	不具三心の行	(一)四修でない念仏 (二)不具三心の行			
道教	人天の善根（無菩提心の行）	人天の善根			
導空	無菩提心の行	無菩提心の行			

以上、本稿では『法事讃疑芥』卷三の「少善根」「随縁雑善」の理解に着目し、それを九品寺流の諸師に広げて検討を加えた。まとめると次表のようになる。

小結

「随縁雑善」は「随縁雑善」者、是上所簡之少善根也。不発菩提心諸善故云「随縁雑善」。

とあり、すなわち、「少善根」と同様に、菩提心の無い諸善を指して「随縁雑善」と理解していることが窺える。

ここでは、无菩提心の行がすなわち少善根であると述べられており、菩提心の有無によって少善根を意味づけている。また「随縁雑善」については、

「随縁雑善」者、是上所簡之少善根也。不発菩提心諸善故云「随縁雑善」。

(四四丁左—四五丁右)

正業也。心知。

善「斯謂也。故『智論』云、「若世間中諸衆生、業因縁故如二循還」。福德縁故生天上」、雑業因縁故人中。」¹⁴无菩提心善根、是雑業也、雑善也、雑行也。発菩提心菩提、是大善也、正行也、

一言に九品寺流といっても、その内実はそれぞれが異なった理解をしていることがわかる。その一方、法然と比較した際には、九品寺流全体としての特徴を見ることができるといえる。まず法然は「少善根」「随縁雑善」をともに雑行、すなわち行そのものを指す語として定義する。それに対し、九品寺流の諸師は、行の修し方や、三心あるいは菩提心の有無に関連させて両者を定義しており、基本的に行そのものを指して「少善根」あるいは「随縁雑善」とはしないのである。

最後に、九品寺流という枠組みそのものについての私見を述べておきたい。筆者は以前、長西・阿弥陀房・道教の三師について、第十八願の「十念」理解の相違を指摘したことがある¹⁴。それに加え、本稿で扱った「少善根」「随縁雑善」釈においてもこれだけ相違が見られることに鑑みると、そもそも彼ら自身に九品寺流という一門流としての意識があったのか、という点も改めて検討される必要があるように思われる。特に阿弥陀房については、「私云」として、長西の理解を批判する記述も多く見られ、本人に長西の門弟としての意識があったか疑わしい部分があると考えている。紙数の都合から、本稿では詳細な検討がかなわなかったが、今後の課題としたい。

付記

小論は、公益財団法人三菱財団の第四八回（二〇一九年度）人文科学研究助成による成果の一部である。また、小論の執筆にあたり、金沢文庫御当局には格別のご高配を賜りました。衷心より感謝申し上げます。

『法事讃疑芥』卷三翻刻

(佐竹・赤松・西村・井上)

【凡例】

- ①本翻刻は、称名寺聖教『法事讃光明抄』の卷三（94函4―3）を翻刻したものである。
- ②漢字は新字の通行体に統一し、略字（合字）は正字に戻して翻刻した。
- ③各丁数はへで括って示し、行取りは原本に準じて行頭に行数を示した。
- ④訓点・合符は原本に付されている通り翻刻したが、スペースに関しては必ずしも原本にはよらず、原則として見出しの前後および問の直前、科段等に適宜私的に付した。ただし、何れの場合も行頭には付さなかった。
- ⑤補記や訂記は本文に反映して翻刻した。
- ⑥翻刻に使用した各種記号が示す意味は次の通りである。
- ・□□ ↓湮滅
- ・「……」 ↓本文に付された省略符/合箇所
- ⑦引用文については、管見の範囲で確認し得た出典を（ ）内に割書で示した。
- ⑧写誤や脱字など、意味が通らない箇所が散見されるが、本翻刻では史料性に重点を置き、明らかな誤りと判断できた場合でも校訂はしなかった。
- ⑨特に必要な情報を示す場合、脚註に記した。

〈一丁右〉

- 01捨彼莊嚴^至乃出閻浮等事
- 02疑云一切諸仏皆捨无勝土出閻浮歎不爾今□□□
- 03或現真形无利物等事 疑云現真形何无利物歎□□□
- 04又或本云而利物何為正歎 有流見解^至乃四千門□□□
- 05浄土者八万四千門撰歎答爾也 門々不同^至乃是□□□
- 06非別之義如何答於法常同常別^二義具足^謂如來内証常平
- 07等因^{諸法非別}對機隨情常差別因^{諸法各別}也是一法^二義也
- 08常同常別法界法爾古今道理之謂也守護章^{（卷七下・四〇四頁上）}云若无^平等^二之差別、
- 09□順仏法^一惡差別若无差別^二之平等^不順仏法^一惡平等^又同者為
- 10□□不二之義為種類相似之義^又答今種類相似義歎但宗々意異也
- 11□□唯心云宗^二天台仏因仏果云宗^一此等意可云一体義也律藏戒品
- 12□□摩為宗^一此^一教立宗^一也此宗^一一切教說止惡修善^一此教
- 〈一丁左〉
- 01□□意可云相似□義^一也事相教故天台菩薩戒疏^{（卷上・「大正藏」卷四〇・五六七頁上）}引
- 十二門論^二云
- 02□□多止行收尽諸惡莫作即是戒門修善奉行即是勸門^又
- 03□□花嚴唯心為宗与法相唯識為宗有何別歎答花嚴第九識分歎
- 04法相第八識分也 同故即是^至是慈悲心等事 疑云同故何為如來致別
- 05故何為慈悲歎答如來悟故悲同^一凡夫迷故見別^一故同約仏内証^一別
- 06約外用慈悲也流轉前同為本^一差為後^一還滅前^二差為本^一同為後也
- 07又致者何義歎答宗旨宗致義也 又浄土門者為如來致為慈悲心歎
- 08答慈悲心也總聖道浄土對機隨情教皆慈悲心也□□□
- 09何文意歎答依如是我聞^一歎□云總標一經大意歎□□□
- 10高撰下讚云下撰高讚云者如先之料簡也已下准□□□

11 釈迦如来^至度衆生等事 疑云卅九年度生之義依□□□
12 卅成道義^者大論說也法聰觀經記(二卷七頁五)云十九出家卅□□□

〈二丁右〉

01 涅槃^文ミタ経新疏^云七^部初部教者旧云此経是仏成□□□
02 五会讚(四七・四七九頁上)云成仏四十余九年彼国経行遊五天□□□

03 経云十九踰城捨国王位三十成道教化衆生^文釈竹□□□
04 説相十九踰城三十成道不説爾前故云我少^文菩提□□□

05 八年作嬰婉七年作童子四年学子明十年受五□□□
06 三十五成道四十五年中教化諸衆生^文金剛般若疏(三・七六頁上)云若依光

讚如来

07 十九出家三十成道^文疏記一(一法華文句記卷五下・二天正藏卷三四頁下)云若仏十九出家乃成廿

四成道若卅成道

08 乃成廿五出家不同見別不須和会^文五百問論(卷下・二正藏卷五六頁下) 仏生時節

涅槃住

09 処身相説法諸部不同乃由見別不須定判^文大論三(五・八〇頁下)云我年始

十九

10 出家学仏道我成道已来已過五歳^文教時浄土論(一教時浄土論卷七五・三五七頁下)云八月入

胎二月入

11 滅若加余年成八十二五以四月出生二月涅槃若取滿年乃七十九若

12 □□同是八十年^文天台宗意十九出家卅成道八十涅槃也

〈二丁左〉

01 □魔外道尽帰宗等事 疑云一代之間不受仏化^者多何云尽帰宗歟

02 □約多分一也 或住或来皆尽利益等事 疑云住与来指誰人事歟

03 □指仏四威儀利益也来者行義也 或震大地……信未深等事 三学

04 中説戒時不現瑞為仏弟子故説□^二応時現瑞非制戒教化門故也

05 三途永絶断追尽等事 疑云追尋者何等歟答生死輪迴追過去^{ツキ}一尋

06 云現在一如此相統等也 或自説法教相勸等事 疑云誰人自説歟答如
07 来无問自説也 私云只是五種説相對^二云仏自説也

08 法林即是ミタ国等事 疑云法林者可指一切法門何限□□□

09 今総属別名也浄土礼文云勤礼ミタ仏国帰極楽林□□□

10 逍遥快樂不相侵等事 疑云不相侵者其義如何□□□

11 高接下讚云下接高讚云者如先之料簡也 如来説□□□

12 尋云元无二者意如何答如来一音含万法云无二也又□□□

〈三丁右〉

01 摩経上(四・五三頁上・二天正藏卷一五三頁上)云大聖法王衆所帰浄心歛仏靡不欣各見□□□

02 神力不共法仏以一音演説法衆生随所解普□□□

03 則神力不共法仏以一音演説法或有恐怖畏或歛□□□

04 断疑斯則神力不共法^文起信論(二天正藏卷三・二五五頁上)云四音一音異類□□□

05 縁一音演説其体何物歟答指其言一不可云何物歟□□□

06 又唯依機不同一教主不異説者能化還^テ有作所化之辺如何答此教主

07 大小乘^ト不分別一機方^ト分別大乘小乘^ト似^テ教主愚^ニ所化賢^{ナル}故致此

08 疑^一也云^二一仏不共徳^ニ以一音小機令聞小乘声大機令聞大乘声^一給也

09 例如天竺^一国王於万事^ニ云^二セムタラト^上云^二尋云見仏聞法者現仏出世説

法以我^一

10 心成見影像歟答宗々各別也不可一准一付有四句一謂唯本无影此小乘意

11 唯影无本此无性師等意也破相三論也亦本亦影此依法乃至□□大

12 論意也法相大乘也能人為影此龍軍等意也自如来蔵一生也法性大乘也

〈三丁左〉

01 又一音異解之義依何経論歟答如前云維摩経上起信論等也又花嚴天台等

也

02 不留^{シテ}殘^セ結^ス証^ス生^ス空^ヲ二等事 疑云不留殘結者文点並意如何答文点如付

03 意□結者正使也不留殘正使也有云羅漢不斷習氣一故可誦三不留二殘結一也

04 又生空者何等歎答人空也 或服外道一滅魔蹤一等事 疑云服イロコシカカフ者カヘル 文点

05 如何答如有云可云伏一借音ニテ今云服一也有云受也 又摩蹤者何等歎答ソノケルヲ繼ツケル摩マ

06 蹤一值仏一滅之二云也 悲心普益絶无功等事 疑云絶无功者何等歎答无

07 利他之功二云也 二万劫尽乃至發大乘等事 疑云二万劫廻心者說□□□

08 答說羅漢廻向一歎此積大乘意也 又二万劫等之義依何經□□□

09 涅槃經等也 又廻心者必依諸仏教化歎答爾也心生自□□□

10 今積爾也正法花(卷四・九・六)云臨滅度時仏在前立勸発无上正□□□

11 身滅智之羅漢一也下接高讚云高接下讚云者如□□□

12 或現上好莊嚴相等事 疑云莊嚴相等者何等歎□□□

〈四丁右〉

01 好称美語也名所依也即菩薩義正報也有相縁覚□□□

02 現一乘形一益衆生一也高接下讚云下接高二云者□□□

03 与仏声聞浄土門等事 疑云可云仏与声聞何云告仏声聞等□□□

04 可誦也 又或本云仏与声聞等何為正歎答仏与声聞可為□□□

05 所化何云開躡浄土門歎答助如来化儀一応化辺ハ声聞菩薩□□□

06 仏徳二云開躡等一也 人天大衆皆来集等事 疑云此文者釈経何文歎□□□

□□□

07 天人衆俱等文也 誓到ミタ……報慈恩等事 尋云今誓到等者勸発善

08 提心歎答不爾此积人天大衆聞法解悟シテ念ト報釈尊恩之意業一也非勸

09 進滅後衆生一也勸進滅後凡夫一文应当発願々生彼国等是也

10 高接下讚云下接高讚云者如先之料簡此可唱二返也如上卷終一

11 第二正宗分

12 爾時仏告長老舍利弗等事 尋云同聞衆多中殊告命舍利弗許一

〈四丁左〉

01 有何意歎答天台(卷三・七・三〇・六)云此經ノ今章ハ对舍利弗余経皆有請至 此経无問自說

02 十二部中亦不具足一无兩種偈一其余諸部亦不全有不对菩薩告声聞者

03 適化无方 欲令凡夫小乘 厭此欣彼也測云初明仏告舍利弗後明正宗

04 所說法門此即第一告舍利弗於諸衆中智惠第一是故如来告舍利弗

05 如仏成論議文二云問說此経時亦有菩薩何故不告菩薩唯告声聞答如法

06 花説有五種義一為諸声聞所心事故二為諸声聞廻心趣大菩提故三護

07 諸声聞恐怯弱故四為令余人善思念故五為諸声聞不□所作已□□

08 故案云彼論意者此法花経説一乘為撰声聞入於大乘□□□

09 声聞所作故告声聞以大菩薩古信作仏非始入故此経亦□□□

10 人為生浄土非始為菩薩故但告声聞余四義唯此同有□□□

11 弗不告余声聞答彼論云隨深智恵如来相応故安□□□

12 義隨順□意故名相応……智度論云何故告舍利□□□

〈五丁右〉

01 惠最第一如仏偈説一切衆生智唯除仏世尊分比舍利弗智恵及□□□

02 於十六分中猶尚不及一年始八歳誦十八部経又云十六年以□□□

03 十八大経是十六歳也作仏弟子案云此无不違一以其八□□□

04 是外典十八部類大経亦爾由是等義偏告鷲子文(卷三・七・三・三四頁上)云□□□

□□□

05 天二而告中声聞上者无令小乘初心欣樂求生廻小入大一故 尋云今□□□

06 経歎答信(卷三・七・八・三)云問教有十二一此経幾具 答略シテ説道品念

仏方法隨業往生

07 及仏依正一如是等説ヲ名修多羅一説不退転阿耨菩提往生極樂一是等受記

08 一経始終无問自説十方恒沙仏不可計補処須臾供諸仏寿命无量劫

- 09 及此一經皆是方広此上三部唯是大乘宝樹音声譬如百千妓樂俱作即
 10 是譬喻天雨妙花水鳥法音奇異莊嚴是未曾有彼无惠趣何有
 11 衆鳥但是仏化如是論議義准如此余五不具凡諸經中不必十二
 12 觀云法華經□无有人□而自說者猶示如来大悲純至機動即說不待
 〈五丁左〉
 01 他請肇云真友不待□如慈母之超嬰兒^比 從是西方過十万億仏土
 02 有世界曰極樂等事 尋云所云十万億仏土者淨穢二土中何歟答末勸
 03 有云經云從是西方過十万億仏土云從是□之^ハ言指此娑婆也爾者
 十万億仏
 04 土者可云穢土^一云々又安樂集上^{（一〇九頁）}云極樂淨土初門^一此文
 十万億仏土云穢土^一
 05 意歟尚々可尋之^一云々異訳称讚經^{（二〇三頁）}云於是西方去此世界過
 百千俱
 06 祇那庾多仏土有仏世界名曰極樂^一又十住断結經^{（九〇頁）}云是時
 世尊如来会
 07 者心中所念而告之^一曰西方去此无数仏土有仏名无量寿^一又觀世□
 08 菩薩往生淨土本緣經^{（三六二頁上）}云從此西方過二十恒河沙仏土有□^一
 □
 09 又天台觀經疏^{（七九頁）}云此去不遠者安樂国土去此十万億仏利□^一
 □
 10 何云不遠解云以仏力故欲見即是又光中現土顯於仏□□□^一
 11 遠也^一玄一小經疏引之大論^{（卷五）}云三千大千国土名一世界一
 時起□□□^一
 12 此世界十方如恒河沙名一仏世界如是一仏世界数如恒沙等亦一仏世□□^一
 □
 〈六丁右〉

- 01 海如是仏世界海数如十方恒河沙名仏世種々如是世界種十方无量是□
 02 一仏世界^一有云天台依此論意一歟答肇云次釈遠近観音授□□□^一
 03 百千仏刹清淨覺經過十万須弥山国无量寿経云去□□□□□^一
 04 悟雖似殊大数相似^一有云上所引文人以不同也経々異□□□□□^一
 05 尋云自爾時仏告^一至今現在說法一依正一報総一標也謂有世界名曰極□□□^一
 06 総標依報一也号アミタ今現在說法者総標正報一也自舍利弗彼土何故名
 07 為極樂至但受諸樂故名極樂者問答依報名一也諸師解釈亦以爾也
 08 而今曰爾時仏告長老舍利弗至但受諸樂故名極樂取総標文段一有何
 09 意一歟答此不審実以爾也但見今解釈次第一自又舍利弗極樂国土七重
 10 欄楯一至舍利弗其仏国土成就如是功德莊嚴一向說依報得名自舍利弗
 11 於汝意云何彼仏何故一至舍利弗彼仏功德国土成就如是功德莊嚴一
 12 向說正報得名一也而自舍利弗彼土何故一至但受諸樂故□極樂一付正報
 〈六丁左〉
 01 得益一說依報得名一而此廿七字巨依正一而兼故取依正総標文段也故次下
 02 釈^{（一〇九頁）}云衆人天壽命長仏号ミタ常說法極樂衆生障自言衆
 等廻心願生
 03 彼^一无有衆苦^一乃故名極樂等事 疑云十方淨土同皆无苦安樂也何
 04 中有極樂之称一歟答淨土私記云問十方淨土各々有如此嚴妙樂何不名極
 05 樂一耶答案此義有二種一十方淨土雖有快樂或賢聖受樂凡夫不樂或
 06 有男樂无女樂一或有断或人樂不断或人不樂或有善□人樂惡業人不樂故
 不得樂
 07 名今極樂皆樂故名極樂歟二花嚴経疏云極樂有花藏世界中若依
 08 此義者花藏即是極樂々々即花藏々々之中无有諸苦故名極樂歟^一円
 （卷三七・三四頁）云□□□^一
 09 論苦樂者五濁重故有衆受諸樂一者同名也^一一切仏土^一至□□□□□^一
 10 疑云乱想凡夫難生淨土者雖勸西方有何詮歟答今釈意□□□□□^一

11 一方々々々々為全心專一二云也隨願往生經意也ミ夕經西資鈔云問知□□

12 皆聖師也而各偏讚一方何故子之不許耶對曰聖師偏讚意別引敷偏好□

〔七丁右〕

01 心決定耳文通讚疏第二（卷中、三六八頁）云問十方仏国快樂皆同何故偏指西方勸□

02 彼答良為凡夫業重廻々生貪若不偏指一方即繫心專注所□□□

03 云衆生廻々著引之令得出又西方淨土至勝願強偏勸□□□

04 所偏指也文慈恩（卷三、三三二頁下）云問十方更不無淨土何以獨讚西方答□□

05 恐衆生境繁心乱故隨願往生經云此廻衆生信向者少□□□□

06 定故令衆生專心有在故偏讚也又若言十方皆有淨土衆生之心則使慢

07 緩若唯一廻心即懇重文法花疏記十（正藏）卷四、三五五頁中問同居類多何必極樂答教說多

08 故由物機故是損生故令專注故宿緣厚故約多分故文高接下讚云下

09 接高讚云者如先之料簡二可唱二返二也 極樂国土至七重行樹等事 疑云

10 栴羅網等皆以七重為分量有何由歟答必云陽數二云三七九一也三生長數也

11 七成就數也九至極數也今日取成就二云七一歟元暁（卷三、三七、三四九頁上）云七七

重欄栴羅網行 又七重者為橫重為豎重歟答豎歟行樹橫二□

12 樹者是莊嚴德成就□ 又七重者為橫重為豎重歟答豎歟行樹橫二□

〔七丁左〕

01 故念仏三昧經等多七重（小經、大正藏）說也元照（卷三、三七、三五九頁下）云言行樹者周廻七

重一々樹高八

02 千由旬行□相当不參差故其樹枝葉已下七層皆垂珠網狀同仏塔文

03 希深（人師名也）小經解云欄橫也栴豎也文 尋云殊以一七重說之有何故歟答二云廻々皆

04 有七宝樹等皆以七數者世間偏重一珍亦貴七世故又為顯示彼国衆生具足

05 七淨七覺等故此皆在地名功德文通贊二（卷中、三三九頁上）云問欄栴羅網行樹何故名有七

06 重更無增減答表生焔彼国得七覺支故身口七支無諸過故有七聖財故文

07 諸師如此云智円疏（卷三、三六八頁）云欄栴者欄橫也縱曰欄橫曰栴文通贊

二（卷中、三六八頁）云橫曰栴豎曰

08 栴欄（栴、栴、栴）也又此中有羅網欄栴等莊嚴何為正一歟答以所□嚴樹□□□

09 皆是四宝周匝圍繞等事 疑云大經等云七宝樹今云四宝□□□

10 說不同也淨名經（觀維摩經）卷中、五四九頁上云无漏法林樹敷以七覺花解脫智□□

11 四宝者測云一者金二者銀三者瑠璃四者頗梨文 又周匝圍繞□□□

12 論之一歟答付法莊嚴四宝二也 万事家生皆捨離等事 疑云此句者□

〔八丁右〕

01 令捨家生等歟答爾也 又家生者何等歟答家中資財也 又此等義經中

02 不見如何答經既云說欣求之辺二知厭離一必可有一也又花嚴經卷第四十普賢

03 願行品（觀維摩經）卷中、五四九頁上云又復是人命終最後刹那一切諸根散壞一切親屬

悉皆捨離一切

04 威勢悉皆退失輔相大臣官城内外象馬車乘珍宝伏藏如是无復□□

05 唯此願王不相捨離於一切時引導其前一刹那中即得往生極樂世□□

06 已即見アミタ仏文高接下讚云下接高讚云者如先之料簡也

07 珠羅宝網百千重等事 疑云羅与網有何別答羅網細簾也 无衰无反堪

08 然常事 疑云他受用依正者当因移果易何云无衰等歟答今对穢土也

09 又湛然常与凝然常同異如何答異也凝然者名法身真如理一湛然者相統（シテ）

永

10 不絶二云也高接下讚云下接高讚云者如先之料簡也可唱二反也

11 四辺階道……上有楼閣等事 疑云道之義如何答通池一階云道一也 私

云不爾階

12 与道也 又有上楼□□□□為池上為岸上歟答岸上也元晧（元照『不疑義疏』一〇六頁下）

云初明池水畔（本下）

〈八丁左〉

01 階□三階上 楼閣（本下）略記（七〇六頁五段）二云言上有等者池下地高地有楼閣一

故云上也（文）

02 和尚釈（元照『法苑珠林』卷四三、四四、四五）二云岸上重楼一 又今所云楼閣是宝地莊嚴歟答

今一段說池事一歟爾

03 □□莊嚴也 私云不爾各別說之也 有七宝池等事 疑云欄楯等皆四

04 宝為能莊嚴一今何以七宝為能莊嚴歟答說辺々一也 八功德水等事 疑

云其

05 八相如何答成実論（卷三『大正藏』下巻）二云一輕二冷三粟是触也四美是味五清

淨是色也

06 六不臭是香七飲以調適八飲已无患是水之用也（卷六九、四〇八頁上）

二云一具六八

07 味二清淨三香潔四除濁五涼冷六飲已无厭七无塵垢八飲之无患（文）

08 称讚淨土經（二三四頁下）二云又舍利子極樂世界淨土中処々皆有七妙宝

池□□

09 水弥滿其中何等名為八功德水一者証淨二者清冷三者甘美四者輕□

10 五者潤沢六者安七者飲時除飢渴等无量過患八者飲已定能長養

11 諸根四大増益種々殊勝善根多福衆生常樂受用（俱舍頌疏十一）

云

12 一廿二冷三粟四輕五清淨六不臭七飲時不損喉八飲已不傷腹（文）

〈九丁右〉

01 是无熱池□事大般若三百九十九（二〇六頁下）云城外周匝七重宝塹八功

徳水

02 弥滿其中冷燻調和清和澄皎鏡（文）此說香城也 尋云瑠璃玻璃者梵

03 漢中何歟答照（卷三三七、三五九頁下）二云瑠璃梵語此翻不遠去波羅奈城不遠有

山出此宝

04 故玻璃亦云頗砥迦此翻水玉或云水精碑渠下並花言如車之礫々□

05 車輞赤真珠者仏地論云赤虫所出珠体赤故碼礪心法師云此□□

06 赤如馬腦焉（卷三三七、三四四頁中）二云亦以金銀下列七宝也瑠璃具云吠琉

璃一此云不遠一

07 照字体本作流離一後人從玉一頗梨正云翠坡致迦一其状少似此方水

08 精一然有赤一有白者一車渠梵云牟婆洛揭拉婆一此云青白色宝一尚書大

09 伝曰大貝如大車之渠□謂車渠赤珠者（照如）智論云真珠出魚腹中竹

10 中蛇腦不必唯生蚌胎也瑪瑙梵云摩婆羅伽隸（袿イ）此云瑪腦一此宝色如馬

11 腦一目為名新本云阿湿摩揭拉一此云蔵杆一或翻胎蔵一取此宝堅実為名一

12 字体作馬腦一後人加石一或王 池中蓮花等事 疑云□□報分量者

〈九丁左〉

01 花量何指少歟答分喻也 尋云以車輪喻形之辺一歟答□也平等經□

02 形如車輪一超世經（卷九『大正藏』上）說毘摩質夕ラ阿修羅王宮二池中蓮花

円如車輪（文）

03 此等积喻形貌也称讚經（二三四頁上）二云是諸池中常有種々雜色蓮花量如

車

04 輪（希深）義解云……大本經云池中蓮花或一由旬乃至百千由旬則知大小

不

05 一肇公ミ夕経義疏云大如車輪次积分量此経拠小者說謂如車輪觀経

06 清淨寛経約大者或廿里乃至六百里隨念大小遂无定（文）此等积分量一也

07 慈恩同之円(卷一、小經卷一、六頁上、三、五、四頁上)云通示形量一如車輪故照(卷一、小經卷一、六頁上、三、六〇頁上)

云若准觀經一々池中有六十

08 億七宝蓮花一々蓮花団円正等十二由旬既言七宝非止四色十二由旬□

09 止車輪然車有大小難為定准此問極大不過數尺可依輪王車輪□

10 十住婆娑云輪聖王千輪金輪種々珍宝莊嚴其輞瑠璃為轂周円

11 十五里准此未及半由旬亦約小者耳所以二經不同者慈恩云花有大小彼拋

12 極大此約最小□准大本池中蓮花或由旬乃至由旬則知大小不一

〈一〇丁右〉

01 尋云細分シテ經文以七重等為別文段一如觀經說相七重等者宝樹觀也

02 宝池者宝池觀也四辺階道者宝池觀也上有樓閣等者宝樓觀也若

03 爾何以此等之文不為別段一歟答有二云經文七重已下說故名極樂一答依

報

04 得名之由一有七宝池已下ヲ經文問難不說故名極樂一故歟有云只是隨宜

□也

05 岸上重樓百万行等事 疑云重者橫豎二重中何歟答豎也下方行一云□

06 口云橫也下方行者拳數也 各坐一箇聽真常等事 疑云箇之訓如何答

07 如上見忠算法花積一也有二箇ト

08 高接下讚云下接高讚云者如先之料簡也可唱二返也 又舍利弗勸食經

09 行等事 疑云此一段中說天樂金地雨花供以等之相何為正歟答供仏為

正也

10 尋云觀經云瑠璃為地一今經云黃金為地相違如何答於衆宝合成地一且說

辺々一也

11 信(卷一、小經卷一、六頁上、六頁上)云問觀經云瑠璃地一何故今云黃金一解曰思益說未來

須弥灯王仏国土一云閣

12 浮金瑠璃為地一准彼一思之黃金不映徹一瑠璃非金色一彼土金色亦応映徹

一故

〈一〇丁左〉

01 俱得□又觀經云瑠璃地上以黃金繩雜則間錯云々二宝合成故亦俱名

02 私云大經上(卷一、小經卷一、三、七〇頁上、三)云七宝合成為地一文可合□也永觀難惠心之義

一也 又極樂无日月

03 以何□別六時歟答慈恩述讚云問彼現无日月何有六時之別答約彼土実

04 无六時亦对此方示其軌判故言六時若依別經亦以花開合為六時也

05 大集經第五(卷一、小經卷一、三、七〇頁上)云爾時有仏号曰得一切願威德王如來……彼世

界名曰現无量諸仏

06 刹土彼世界中不似日月光明以諸灯樹及摩尼而以照明昼夜唯以宝

07 花開合知有時節悲花經亦意同也照(卷一、小經卷一、三、六〇頁中)云彼国光明常照

既无日月

08 □无昼夜順此方機且言六時准大本中彼以蓮開鳥鳴為曉合鳥□

09 為夜龍興觀經記云无女人者如大悲經仏告窮日光明菩薩東南方□□

10 億百千仏土有世界名曰蓮花仏告蓮花尊諸菩薩以禅三昧為食香食光

11 有栴食亦无女人日月昼夜等至猶如西方安樂世界以合花鳥洒而知時節

12 又曼陀羅花者何翻之歟答肇云計雨花意為嚴意為嚴飾其花覆地

〈一一丁右〉

01 厚四寸隨色次□分布而不雜乱光沢香粟足踏上行裁下四寸拳足還

02 起曼陀羅者此云花言如意花曼殊沙名栗文台(卷一、小經卷一、三、六〇頁下)云至妙

名曼陀羅色

03 々々妙无比香氣芬文恩(卷一、小經卷一、三、三〇頁下)云曼陀羅者此云赤円花亦言如意

花正法花名

04 適意花大適意花若曼殊沙名為柔栗花即小品經中帝釈向曼陀羅花

05 供養般若波羅蜜須菩提言此花從心樹生即如心所欲而雨也又釈者花

06 所生從其心生然花貌終是赤円文照(卷一、小經卷一、三、六〇頁中)言曼陀羅此翻適意

言其美也

07 又翻白花取色也文觀云法花疏云曼陀羅花者何西明云天花名也中国亦

08 有之其似赤而黄如青而紫如銀而紅日問称讚經說常雨種々上妙天花今

09 何唯言曼陀羅今說一花是即略也理実彼土可雨衆花故文円卷一七・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇

云翻適意

10 □□悦人意一故其色白故或翻為白花也 又或本云而雨曼陀羅花何為

正一歟

11 答雨天為正也唐本皆爾也 又衣ハナコ、被者何等歟答国王太子入花スル進物也

12 肇□衣被者謂衣衿□文恩同之天台義記卷三三・三〇・六頁下）云衣被是盛花

器形如□蓋

〈一一丁左〉

01 而有一足□擎供養文元曉卷三三・三六・三六頁中）云衣被真諦云外国盛花器也文

尋云可供養

02 仏何限十萬億一歟答只是隨宜也故大經廿三願卷二二・二六八頁中）云國中

菩薩承仏神力供養諸仏

03 一食之頃不能遍至无数无量那由他諸仏文又卅二願卷二二・二六九頁上）

云一発意頃供養

04 无量不可思議諸仏世尊文又下卷二二・二七三頁下）養承仏神力一食之頃往

生諸十方无量

05 世界恭敬供養諸仏世尊文有云案十住毘婆意今經約新往者一歟云常以

06 清旦云飯食經行等一故旧住菩薩日々六時供養諸仏也一云問兩卷經

……往詣十

07 方……云何今說十萬億仏答彼經既言菩薩拋勝機說此經約下機故无相

違文

08 尋云即以食時還到本国一食時者何時歟同卷三三・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇）云問言食時

者為同此処已午之

09 際為別時也答雖短長不等食時故亦是同文欽云食時中言前者此二義如

10 金剛般若經云食時著衣持鉢此乃人家食熟之時当辰巳間也二云今食時飯

11 食正是諸仏受食之時也或曰毘羅三昧經云諸仏並日中食如何在中前答

12 為名所使來遍養也一若正中時自属時非時不合食故須在中前方令

〈一二丁右〉

01 進嗽文 飯食等事 仁岳疏下云問食以資身為義淨土之中為是何食答

02 実報土禪悅為味若反化土段食資身今謂不能抛往生論偈云愛食文

03 又輕行之相如何答兩方往還也慈恩疏卷三三・三三・三四・三五・三六・三七・三八・三九・四〇・四一・四二・四三・四四・四五・四六・四七・四八・四九・五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七・五八・五九・六〇・六一・六二・六三・六四・六五・六六・六七・六八・六九・七〇・七一・七二・七三・七四・七五・七六・七七・七八・七九・八〇・八一・八二・八三・八四・八五・八六・八七・八八・八九・九〇・九一・九二・九三・九四・九五・九六・九七・九八・九九・一〇〇）云經行者謂旋遶

思惟文大日云經

04 行処一築壇一食後經行也為適悦一也四分律卷二五・九〇・五頁中）云經行有五

益一堪遠行一能

05 思惟三少病四消食五得定久住文釈迦方誌卷一・九五七頁下）云仏經行石基

長五十步高

06 七尺足之所履皆蓮花文云々南海伝第三卷四・三二二頁中）云義淨五天之地道俗多

作經行一

07 真至直來唯遵一路一隨時一適性カクヘニ一勿居用処スルコト一則癒イサス病一能銷食一

謂中

08 日映即行時也或可出寺一長行一或於廊下一徐行若不為之一身多病苦一

……

09 又云仏經行基瀾ヒトサ可二時一長十四五肘一余累カサネラハラフ一磚ニ一作也上以石一作蓮花一

開敷勢一

10 高二寸瀾一尺許有十四五表聖足跡一也文弘決卷一・一八二頁中）云三千威儀

經云經行有五処一

11 一閑処二戸前三講堂四塔下五閣下文 種云随心皆称意等事 疑云種々何等歟

12 答□養諸仏供養也稱讚經云供養無數仏也 又心与意有何別一歟答
〈一二丁左〉

01 同也□心意識体一俱舍(卷四、二六頁) 頌心々所有依故但執起名心思量
為意了別名識云々

02 高接下讚云下接高讚云者料簡可唱二返也 復次舍利弗等事 疑云此一
段置

03 復次之言有何要歟答无別之由一只文段始故或云又一或云復一也 尋云鳥
者

04 畜生也浄土既无三惡趣何云常有種々奇妙雜色之辺哉答肇云正法念經
05 云四天已上无実畜生諸天福力為嚴処所亦有禽獸然非実報何況浄□

06 而得有之言語鳥者ミタ所化作文恩(卷三、三三頁) 云言語鳥者或ミタ所
化或宝光状似之文

07 一云及有三謂自身相応罪身相応者身口業通於三化若意業但是初二若
令

08 有心即他身撰故広如仏地論然即此鳥他身相応文恩(卷三、三三頁) 云人
疑云此鳥既非

09 実報當是何身答曰是彼仏化作或宝光明化作意欲令其助宣正法故文
10 白鶴孔雀乃其命鳥等事 疑云白鶴者何等歟答鶴類也有云有云鶴一極小

11 辺一射彼一云射鶴云義一也人広知大小事一亦云射鶴之義一也恩
(天台「小経義」(六頁下) 二云三雜色鳥)

12 白鶴孔雀鸚鵡鶴亦如此 聞水禽之類文通讚疏(卷中、二六頁) 二云白鶴者
丹

〈一二丁右〉
01 朱作頂霜雪為毛一鳴之即声振九臯舞之則雅和八節迥異諸鳥故云

02 白鶴文玄一記云鶴音野屋長為鶴 欽云白鶴者道家有相鶴經一曰体尚潔
03 故其色白声聞天故其項赤食於水故其喙 長軒於前一故後指短棲於

04 陸故一足高而尾凋(即短尾也) 翔於雲一故毛豊而肉疎寿一千年(卷三、五頁) 二云
白鶴者

05 相鶴經曰毛豊而肉疎大喉以吐故一修頸以納新故生天寿不可量
06 周欽記(卷五、六七頁) 孔雀大好翅鳥聞雷則舞扇霧則鳴巢方尋之
高食再熟之稻

07 鸚武者山海經云黃山有鳥如鴉類搯切青羽赤喙許願切 人舌能名曰鸚武
08 瑛經云亦有白色者文 又舍利者翻名如何答光記(正藏卷四、八頁) 翻百
舌鳥一或翻鶯カトリ

09 通讚(卷中、二六頁) 二云舍利者梵語此云鶯鶯也……而万里飛文又(卷中、二六頁)
三四頁下) 二云迦陵頻伽此云妙音文

10 元照(卷三、三六頁) 二云此云妙声光記(正藏卷四、八頁) 二云舍利鳥者百
舌鳥也有云舍利鳥者鶯也云々

11 答肇云仏莊嚴不思議經云舍利者此云鸚鵡鳥文恩同之照(卷三、三六頁)
云舍利此云春鶯

12 或云鶯路文觀云有疏云舍利者此云鸚鵡鳥……光記云舍利鳥者舌身也
〈一二丁左〉

01 有云□利鳥者鶯也文迦陵頻伽者肇云智度論云此无正名号好音鳥此
02 鳥雖未出声其音已勝衆鳥何況出声文恩同之一云迦陵頻伽者鶯妙

03 音鳥如余処説仏以伽陵頻伽音為衆演說辟喻經中阿育王問波斯匿王
04 妹尼云仏有八種音聲以何為喻道人曰仏音嚴妙无双无比唯今海辺

05 有鳥名為羯隨其頗有髣髴王即還曰使人求之未復得鳥旬日不鳴
06 王甚恠之時有青衣莊嚴以大鏡著鳥前於鳥見鏡中影驚欣歡鳴

07 青衣旋之不得令鳥青衣莊嚴我能令鳥鳴王言汝能使鳥鳴汝為夫
08 人即取大鏡懸之四面鳥后中央四句見伴即使悲鳴声甚哀和□□分

09 之一王意歡喜即発无上正真宮中綵女凡千人亦発无上道意從意從
10 分遂信三宝鳥之音声所発如是覽於其真清浄妙音者乎案曰伽陵

11 類伽即名羯羅^文照与觀意同之 又其命者為一有情為有情答二有情也
 12 釈迦与調達□□命鳥^一給提婆食毒俱死天台義記（卷三七・三〇・六四）二云共
 命兩頭而
 〈一四丁右〉

01 同一体生死齊等故曰共命^文玄^一二云其命鳥者^二頭一身即二有情若一死者
 02 即二俱死故言其命^文肇^三云其命々者相伝云一身兩頭^文恩同之歛云其命者
 03 又勝天王^{ニハ}名生々涅槃云耆婆^一々々皆尼名此鳥以耆婆翻活或生或命^文
 04 尋云彼土說法鳥樹風波其限六時一歎答信（卷五七・六七・六四）二云音限六時
 風常相統^文

05 尋云今五根等者小乘卅品歎爾者何不說四念処四正勤四如意足一歎答觀
 云何故

06 不說四念住等有疏釈云彼化生身然无体不淨等故而不倒執淨不淨心故不
 07 說身念雖无苦受亦不樂執心到不說念受知心无常勵誠修道不說念心
 08 知法无我无我倒不說念法^{説法}説法^{説法}不曾造惡无煩惱説斷熾然自勵諸
 09 聖道不仮説修故^{四不動}定慧兼修非恒散乱五通報得无劳如意是故前
 10 三鳥音不說又略举非鳥不宣^又称讚云如是衆鳥昼夜六時恒
 11 共集会出和雅声随其類音宣暢妙法所謂甚深念住正斷神足根
 12 力覺支□无量妙法^是故知此経如是等言非唯念住等之取余无量妙法也^文
 〈一四丁左〉

01 尋云五根等者其相如何答照（卷三七・六〇・四四）二云是諸下次明演法和雅謂
 声音感人演暢

02 謂說法无滯一五根者一信二精進三念四定五慧能聖道一故総名根即此五
 03 法能排業或一故名為力七菩提分即七覺支一択法二精進三喜四除五捨六
 定

04 七无学^{ハニ}実^{ニチ}覺^チ七事能到故名為分八聖道分者一正見二正思惟三正語四
 05 正業五正命六正精進七正念八正道前二慧学中三戒学後三定学即是

06 離明三学一因果已去見真諦理一皆名正道一亦名聖道一余如法界次第委
 07 明^文円（卷三七・三五・四四）云七菩提分者諸経云七覺支一是也謂念扱進喜輕
 安定捨前一兼定

08 慧二次三是慧後三是定 尋云経云アミタ仏今現在說法一有何不足用畜
 生
 09 等說法一歎答恩（卷三七・三三・四四）二云智度論問云浄土中諸仏有无量神力一
 何不但多化作仏

10 処々說法度生乃化畜生皆現樹木等說法也答若処々化身衆生即不能
 11 信謂為幻化也心不敬重於道難入所以不化作仏又如本生経說若菩薩
 12 作畜生身為人說法人以希有故聞皆信受又以畜生心真故不誑人聞
 〈一五丁右〉

01 則生信又恐有情衆生是欺誑故亦令无情樹木而演說法聞則□受^文
 02 肇与觀同之 又此衆鳥者依正二報中何歎答依報分也玄義分爾也
 03 私云此義不爾鳥者必正報之撰也 其土衆生……念僧等事 疑云衆鳥演
 暢根

04 力覺道歎爾者聞者何念三宝歎答必不可限根力覺道一可暢仏地三身功德
 05 无量法門歎而今举少分故云如是等法一也総功德法体不可過三宝也
 06 尋云无三惡趣^上重云尚无三惡道之名有何意一歎答名体各別故也准論
 07 文一无三惡趣者說无体機嫌无三惡道之名者說名機嫌一也 又此一段
 08 中举衆鳥說法等之種々莊嚴相何為正歎答說法相為正一也

09 高接下讚三下^下接高讚三云者如先之料簡 文々句々理相同等事 尋云
 10 □如何答文々句々者非色経卷一衆鳥声也能同之 或說他方劫機人天等
 事
 11 疑云離惡道者何等歎答說他方苦事一令覺動菩提心故菩薩往生一方說法一
 令

12 離惡道一也故下云菩薩声聞聞此法処々分身転法輪也 又地獄封人天者

文点如何

〈一五丁左〉

01 答封□□歎爰以法照五云讚（四卷本、四七六頁下） 引此文云对人天^二也高接下

讚云反可下接高

02 讚云者如前 人天雜類等事 疑云雜類者何等歎答衆鳥等也云或現鳥

03 身等一故也有云指往生機分一歎証无為法性一故 或使風光相応動等事

04 疑云風光相応者何等歎答光說法音与風音一令相応^二云事歎

05 慚謝アミ師等事 疑云アミ師者何等歎答可云アミタト一為調韻一書師也

06 謂上不思議与今アミ師^一也下接高讚云反可高接下讚云者如先之料簡

07 ミタ仏国真嚴淨等事 疑云此一段者积成経何文歎答総結上来五依

08 報段已下以觀経意一积歎 往生彼国无余事等事 疑云此段置无余

09 事也此言意如何答依報終故慙歎云无余事一此即結无有衆苦^一也

10 高接下讚云下接高讚云者可唱二反 彼仏光明^至无所障導等事 疑云

11 於色法為无障導於心法為无障導一歎答色法不障導一勿論也心法不障導也

12 口云先云色法也 尋云経文説彼仏光明照十方国者有何益一歎答□文

〈一六丁右〉

01 雖幽以果案之撰取衆生^二為令往生^一也次下积云正坐已來経十劫心縁法

界照

02 慈光蒙光触者塵勞滅臨終見仏往西方又礼讚云アミタ仏下注□

03 可見云 彼仏寿命^至乃故名アミタ仏等事 疑云所言无量寿為有量為无量

04 々々一歎答今師意无量无量也又他受用故无量々々也 尋云仏果平等何

独

05 云光寿无量一歎答恩（一、小経疏、二、天竺）云問諸仏德行皆同何故アミ独勝答

智度論云諸仏常

06 光亦无大小遠近之異但由衆生根有淺深德有原薄諸仏光所現不

07 同然実平等故十住毘婆沙云諸仏常光不可以由旬數量為限遍滿十方莫

08 知辺際文円（一、小経疏、二、天竺）云积迎光明亦能照无量国一応名アミタ一答积

迦現劣応身一常光

09 一尋而已及現通放光一方照无量二彼仏現勝応身常光无量故受其名

10 観云問曰諸仏功德齊等何故ミタ光明殊勝积言法報功德齊等但化身仏多

依

11 本願有差別以本願故此仏光勝故願云設我得仏光明有能限量……不取正

覺文

12 尋云及其人民者為壽命為人歎答壽命也本仏寿隨一故也玄一云問ミタ

是能

〈一六丁左〉

01 化身何故合所化壽命积答諸仏得名不定約唯所化尚以无失何況合説文

02 測云正益有三无量一者光明二者寿命三者從衆^又又極衆衆生壽命无量

03 故可名アミタ一歎答不可名歎但迦才积爾也 又撰持一切无量法故云无

量歎

04 答不爾一法々々毎法无量也玄一記云問仏命无量故仏名アミタ其義可

爾何故

05 衆生命无量之義亦彼仏一答彼仏願力衆生命長故名仏徳当有仏失文

06 尋云アミ翻名如何答智恵疏（一、小経疏、二、天竺）云阿之言无ミタ言量也

何故名无量耶以四義

07 故得名一光明照无量二壽命數限无量三大小弟子无量四生者補処

08 无量由茲四事一以立尊号一玄一記云今此経中略明彼四種一无□光

09 々種无量故二无边光照十方国无边際故三无障碍光无人对障故即无

10 对光四无导光无物能障故文 尋云阿僧祇者其數量如何答恩（一、小経疏、二、天竺）

11 度論云阿之言无僧祇言數劫言時経无数劫時撰論云不可數有二阿僧祇

12 劫謂年同歲數不可數此是小劫二劫阿僧祇謂菩薩修進以劫為量此故

（一七丁右）

01 亦不可數故名為劫阿僧祇此是大劫今ミタ壽劫者是年同歲阿僧祇

02 劫也此是小劫其劫義如別章問彼仏壽越僧祇未知作仏已來于今

03 近若久即恐臨滅度雖十念而難逢近即因未涅槃終百年而可望良有

04 斯問故下答云云又云恩（卷三七・三三頁上）云云成仏已來於今十劫須見所疑也

謂成化已來始終十

05 劫願生必見問是何劫答是小劫如梁撰論以行年双等歲為一數々□六十

06 數為一阿僧祇謂五年兩閏為双即一雙二双乃至十双百双千双万双

07 阿僧祇双名一小劫所以知是双等劫者花嚴經云娑婆一劫当彼一日一夜即以此

08 卅月為一月乃至十二月為一歲即兩閏為双乃至僧祇故（卷六・三六頁上）

云大論云无量

09 億阿僧祇与恒河沙者多數量理同云々諸文雖異彼土專量大劫一恒河沙

10 數劫耳 アミタ仏成已來於今十劫等事 疑云此段中說成仏遠近有何由

11 歟元曉疏（卷三七・三四頁下）云文中成仏已來於今十劫者為遺疑情有人疑言壽雖无量要有

12 始終未知今者為始耶今解言今已所遠唯逕十劫当知今後无量劫住故

（一七丁左）

01 論云莊嚴主功德成就者偈言正覺……住持文慈恩永觀為十劫一歟元照

（卷三七・三三頁上）云言十劫者

02 准法花大通智勝仏時ミタ乃是十六王子釈迦既經塵劫ミタ豈不然楞嚴勢

03 至章云我於往昔恒沙劫有仏出世名无量光十二如來相繼一劫准大本中

04 即ミタ也今經大本皆言十劫乃是一期赴機之說不足疑矣文義述

05 壽雖十劫然世間不可數知一故名无量壽文希深義解云言十劫者一期赴

06 機宣実非是算數之所能知也文 又余經中多説久遠義今云十劫豈不相

07 違歟答經々異説也真言經等説无始无終五智如來一苾芻嚴經

（卷九・二八頁上）説往昔

08 恒沙劫有出世名无量光文 无量无边卷九・二八頁上）阿羅漢等事 疑云彼国□前三

09 果人何云皆是阿羅漢歟答一從成仏始一有聲聞歟一約終一云皆一歟慈恩述

讚云

10 名阿羅漢者断煩惱故得於尽智証无為故得无生智文

11 兆載永劫亦无央等事 疑云兆載者何等歟答算數位也 又无央者文点

12 如何答如上憬興（卷七・四七頁下）云阿僧祇異名也一坐无福亦不動等事 疑云无移与不

（一八丁右）

01 動有何別歟答无移三世一不動四相一也 分身遣化往相迎等事 疑云

02 分身遣化有何別歟答分身即化也 又九品來迎仏皆是化身歟答不

03 爾但今釈約多分也總約機見不同一約報身徳用一也群疑論一（卷七・三四頁下）

云釈甚

04 深実相平等妙理（卷六・三六頁上）法身如來本无生滅一以本願无限大悲接引衆生一從真

05 起（卷六・三六頁上）化十方世界一如來引接三輩九品一以化即真不來不去一隨機応物一有往有

06 還一若經抛化体即真一説无來去一觀經抛從真一流（卷六・三六頁上）化一現有（卷六・三六頁上）往還（卷六・三六頁上）

07 高接下讚云（卷六・三六頁上）下接高讚云者如先之料簡一 一坐百劫長時劫等事 尋云

一坐

08 者意如何答行菩薩行一思思暫時坐一祇過長時劫一云也 同因行至菩提等

事 疑云

09 此文意説何事歟答ミタ卅八願因也六度万行々也因行共至菩薩一故也

10 誓願莊嚴清浄土等事 疑云約誰人論誓願歟答付ミタ一論也 ミタ化至当

11□等事 尋云当心坐者意如何答当中心一生云也 花台独廻至乃間雜宝等事

12疑云說正報中何拳依報莊嚴歟答所座故也高接下讚云下接高讚云者可反
一八丁左

01如先之料簡一円(卷三十七、三十五中)云阿鞞跋致此翻不退轉一而不退有二位
行念也通教初果以

02去齊羅漢一位不退七地行不退八地念不退別教以往行向對之初地証念不
退

03向但修耳円教初信至七信一位不退八信以去行不退初住証念不退
04衆生々々等事 疑云文点如何答如上 尋云指何等機品云衆生々々者一
歟答円測云

05初地已上无量善根方得生彼文自余人師約凡夫也 皆是アヒ跋致等事
06疑云指何位云アヒハチト歟答今処不退位也肇公義疏云小品經云不退故
名アヒ

07ハチ是人更不為諸魔所動更无退轉得无生忍未得忍者是生死肉身文
08其中多有一生補処等事 疑云一國中何多有補処歟答非□極樂□処一

09一生補処致菩薩多ト云也慈恩疏(卷三十七、三十五)云資糧論云一生補処及
最後身問為一

10為異答不同謂第十地菩薩更有一生所繫者欲入兜卒天若正住兜卒ト
11天中者名最後身小品經云是菩薩一生補処是菩薩最後身文 尋云但可以

12无量无边阿僧祇劫說彼国菩薩可有說尽之期一歟答有云爾也无過□万
一八九丁右

01億仏土等有量能破云々 尋云一生補処者名義如何□□(卷三十七、三十五)
旧聖衆即助円淨謂

02諸菩薩助仏揚化一生補処十地菩薩更於兜卒天一度受生從兜卒天下
03即補前仏処而成仏文測云如智度論等菩薩有多種謂一生成仏名為

04一生二生三生乃至多生如仁王等或有後身菩薩即依彼身成仏道者今
05且举一生如弥勒妙性菩薩類文一云一說一云十地菩薩皆名一生藥師經云
□□故

06唯除本願更无別生能補仏処故名補処不同一生所繫二云即是一生所
07繫菩薩如是觀音等雖是一生義分為二謂仏在名為一生菩薩後欲成仏時

08名最後身文信(卷五十七、六十八)云一生補処者或有補処過利塵劫成仏无
期如文殊等或

09有不久成仏如賢劫諸仏故知但約斷或証理隣近妙覺名為一生不約時
10分遠近差別彼土菩薩速成仏者理必往他方隨縁国土耳文

11衆生聞者至乃生彼国等事 疑云所言發願分齊如何答往生發願也円測疏云
12第三明往因即念仏名号至乃此意說云因是正因願是勝縁雖有其因无願
一八九丁左

01不成雖有其願无因不成是故此中先發願彼修正因文 又以此發願正
02為往生安心歟答爾也 所以者何至乃俱会一処等事 疑云上說依正二報

03莊嚴何偏拳聖衆俱会之相為發願境歟答爾也但今举得果益也
04惠心略記(卷六十七、六十八)云所以者何微也得与如是等者答也此中隨衆生愛
樂一故勸与

05菩薩一俱会上如宝積經普明菩薩会如月初出時衆人愛敬コト踰ケルカ 於滿月一
06如是迦葉信我語者愛敬菩薩一過ケリ 於如来一何以故由諸菩薩生如来一
故ニト云々

07其中若有示見仏者亦必隨喜至乃又弥勒下生經云欲食自然粳米欲著

08自然衣裳歟心精進云々准極樂一應有此類異說如是行人消息文
09不可以少善根至乃生彼国等事 疑云少スコシキ 善者文点如何如上円(卷三十七、三十五)

10示又二一反顯二正示初文不可以少善得生則反顯可以多善得生一也少
善

11 謂等閑發願散乱称名多善_二謂執持名号要期日限舍利弗下_二正示又
12 四一修因_二感相三顯益四得生初文執持名号執謂執受持謂任持信力

〈二〇丁右〉

01 故執受在心_一念力故任持不_レ忘其人下_二感相是□□三顯益即得下四得生

02 悉如文又以此等龍下文段何不論往生得否歟答付已下共有道理_一也

03 又觀仏三昧等少善撰歟答今師意爾也 私云此義以外料簡也有何証拠_一

歟

04 尋□諸師如何积之歟答天台義記（『小經疏』、『天鼓疏』）云問前云不可以少善根後那云一日七日一心不散

05 乱皆得生_一歟答今不可以少日為_二多小時_一特_レ由用心厚薄_二耳若能七日□□不

06 乱其人命終アミタ仏以宿願力_一化仏迎撰心不顛倒_一即得往生_一何以故臨終_一

07 念用心以懇切即当得生也（信同）肇公義疏云舍利弗不可以少善根福德因

08 緣得生彼国次簡小因_一良恐衆生曾聞_二仏説_一臨終十念即得往生_一我今

09 命未窮且当放逸_一為遮此念_一故言不可_レ彼国多持齊多持戒多念仏多

10 誦經多礼多行檀布施乃得生彼_一十住論云諸菩薩凡起少行發深大行以行

11 □大故得大果報至心_一念アミタ仏_一滅八十億劫生死之罪_一何況多念即是有行_一

12 又願往生_一行願相扶何為不得_一衆生_一聞少善根不生彼国即懷疑或_二多許

功德方

〈二〇丁左〉

01 可得生_一故如来教令一日念仏乃至七日念仏發願必得往生_一慈恩同之

02 慈藏ミタ経記云初小因不得生舍利弗若有已下第二大因乃得生_二初是小

善

03 根者非多小之少_一是大小之小所以者何安樂国是仏菩薩所居之処惟大心所生

04 小心不得生_一故曰小_一也若大乘門雖修少分善根_二而識心發願亦得往生如経論説也

05 元照（『小經疏』、『天鼓疏』）云如来欲明持名功勝_一先貶余善為小善根_二所謂布

施持戒立与造

06 像礼誦坐補懺念苦行一切福業若无正信廻向願求_一皆為小善_一非往生

07 因_一若依此経_一執持名号決定往生即知称名是多善根多福德也昔作此解_一

08 人尚遲疑近得襄陽石碑経本文理冥符始懷深信_一彼云若善男子□女

09 人聞説アミタ仏一心不乱專称名号_一以称名故諸罪消滅即是多功德多善

10 根多福德因縁_一彼石経本梁陳人書至今六百余載六竊_レ疑今本相伝訛脱_一

11 希深義解同之要決（『西經疏』、『天鼓疏』）云夫論善根多少只約念仏以明過去无宿善今生

12 不聞仏号但今得聞淨土專心念仏此為大善設雖□□淨土究竟願生進退

〈二一丁右〉

01 未恒不決定判為少善_一春秋晏子曰以一心可事百君以百心不可事一君_一

02 曉（『小經疏』、『天鼓疏』）云顯示菩提心撰多善根_一以為因縁乃得生故如菩薩地發心品云又諸菩薩最

03 初發心能撰一切菩提分法殊勝善根為首故能違一切有情処所三業惡行功德相

04 心案云菩薩初發菩提之心能撰一切殊勝善根能違衆生功德相是故説言非

05 言小善根福因縁得生彼国所以得知以此因者兩卷中撰九品因為三輩三

06 中皆有發菩提心論中為顯此文意言大乘善根界等无譏嫌名_一

07 測云此即第二讚因殊勝称讚経云舍利子生彼仏土諸有情類成就无量无

08 辺功德非少善根諸有情類当得往生无量寿仏極樂世界清淨仏土即依

09 此文有說理実初地已上无量善根方得生彼故云撰論等云一念アミタ仏生淨土

10 者是別時意觀經所說十六觀等涅槃經云掃塔塗看病孝養父母供養諸仏
11 菩薩衆生善根等皆是別事意一者一中間習種解脫分善根者内念力故
12 擊發旧種子閏而生往來若不爾者便不得生而撰大乘等別時者納依受

〈二二丁左〉

01 用土故不相違文 尋云付不可以少善根等之文一諸師作異解一有何由一歟
答於

02 所積經文分明諸師全不異解一文相幽玄異解不同也而今雖說少善不生一未

03 明少善之相一而今案此文意一有其二意一一次下說執持名号得生故知指名号外

04 自余諸善二云少善不生一歟二說一心不乱即得往生一故知設雖執持名号一非一心不

05 乱二云少善不生一歟有此道理一故諸師各異解也又雖余行一「一心不乱行之即得

06 往生也何云少善不生一歟又雖名号一非一心不乱一不可生一何云即得往生一歟故知經意

07 大約安心厚薄一說少善不生一也然則人師解積多分約安心淺深一積少善不生

08 之義也一私云付隨緣雜善惡難生一等之文一料簡之一有四意一歟謂一余行、疎雜、故

09 云不生一如深心下積一雖可廻向得生衆名疎雜行一也一余行散心、故云不生一如下品

10 上生、積一聞經十二部一「心散故滅罪孽等也此二義於具足三心人、与奪之意且云

11 不生一也又經說得生者一云一心不乱一積云專復專等一此約行相一「積得生一也三

12 余行、不具三心者一云不生一如元照小經疏（七六三六頁中）一云「无正信一廻向願求等一也四念仏

〈二二丁右〉
01 举不具三心者一云不生一如智円小經疏（七六三五頁中）一云「閑發願散

乱称名也此二義於不具
02 三心人、以実義二云不生一也又礼讚序積「不生者一（七六四三頁下）一云「若欲捨專一修雜業一者希得

03 一二…千中无一等一此約安心二云不生一也又此四義中初二義、仮令義也容有義也

04 後二義、真実義也必然義也 狂、此人皮裏、驢骨等事 疑云文点并意如何

05 答如上高接下讚云「下接高讚云先之料簡 十地已下劫難窮等事

06 疑云文点意如何答初生菩薩久生菩薩无数限二云也 六識縱横等事 疑云文意

07 如何答以六識一同時知万事一横也前後、縦也 專心專住等事 疑云心与注

08 有何別歟答心者專能縁之心一注者專所縁之境一也 下接高讚云「如先之料簡一

09 聞說アミタ仏執持名号等事 疑云執持者安心起行中何歟答起行也新疏

10 云執持名号者此有二義一称能詮之名二念所詮之理当以称名為助以念理為

11 正二皆專志故曰執持（六四三頁中）一云「七日聞持專一心而不乱是多功德非少

12 善根^文 又為但持名号为兼称名号一歟答今師意当称名号也礼讚

（七・四七頁） 积一心

〈二二丁左〉

01 称仏不乱一故智円疏（卷三・七五頁）云初文執持名号謂執執受持謂任持

信力故執受

02 在心念力故任持不忘^文西資鈔云信力故執受在心等者由在心不忘所以口

03 常称名^文有云唯識論云名称音聞声^七依声^七仮立^文名号必依声^七立者也

04 尋云執持名号者觀称中何歟答今积雖不云称名一玄義別時門（七・四五頁）

积一日七日

05 称仏之名一礼讚後序（七・四七頁）积一心称仏不乱一又（七・四四頁）积十

声十声又（七・四八頁）积若称仏往生

06 者^云諸師皆以如此也 難云今聞説アミタ仏者指上^ナ光明寿命无量故名

07 アミタ仏之説一歟若爾者執持名号者聞^ナ觀念之境一謂可觀光明寿命等一

故

08 何云称名一歟又付經之文言一執持二字不必聞称名一如何答難勢実□爾也

09 但論藏性相云名句文身依声仮立一故名号必可口唱之一也雖爾一堅^ナ著者共

不

10 可一偏一經論文言多含^ハ付執持名号一可有二業之行也是以諸師解釈

辺々也

11 若一日^乃不乱等事 疑云所言七日等修行者長時別時中何歟答長時也新

12 疏下云若利根者若一時若一日即得觀仏三昧若中根者若三月若四

〈二二丁右〉

01 月方得定若鈍根者乃至七日方得定若善根者若一月乃至百年

02 亦无所推之可解^文 又為臨終行相為尋常行相歟答尋常行相也

03 略記心^{（七・六七頁）}云問一日七日等為是尋常為臨終耶答由尋所行得臨

終正念也

04 然義記云心不顛倒即得往生二何以故臨終一念用心懇切^ニ即當得去^一此

05 臨終正念之用非言七日必近臨終^一觀云問曰今説七日之行為近臨終

06 為通尋常釈有兩解一云唯近行故感禪師云觀經臨終者極少一念十

07 念亦得往生アミタ經对有命未盡經曰始已或一二日乃至經於多日能念仏

08 名亦生淨土无量壽經對長壽不死之者形壽一向專念方得往生^ニ亦

09 通尋常問曰若言通尋常者七日之後遇縁作惡豈得往生如遺教経云嘔恚

10 之害破善法又劫功德賊無過嘔恚^一言不爾七日行後設雖造罪而此行

11 法決定業故是人終時不顛倒懺悔罪必得往生或七日後不遇惡縁以是大

12 善威徳力一切諸仏所護念故此解為勝不爾便有尋常行中无定業過^文

〈二二丁左〉

01 又一心者定散中何歟答散也稱讚經云繫念不乱或有約事理一師

02 通贊二（卷中・三・三四頁）云一心者更无間隔故名曰一心不乱者專注无散

也^文

03 我見是利故説此言等事 疑云我見者為知見為眼見歟答知見也稱讚

04 經説觀一也肇云謂我法眼見是勝利勸汝勸修往果也

05 慈恩（卷三・三六頁）云我了々見々有如是勝利故勸汝往生也 又我見

等之言者指上何

06 文等歟答上依正二報発願起行等也稱讚經（一・三五頁）云又舍利子我觀

如是利

07 益安樂大事因縁説誠諦語若有淨信諸善男子或善女人得聞

08 如是无量壽仏不可思議功德名号極樂世界淨仏土者一切皆応信受

09 発願如説修行生彼仏土^文 又利者何等歟答利益也天台記（感・小経七・三〇七頁上）

云心当発

10 願一心修行願行相扶必得往生^文諸師多积上来依正二報功德利益行者

11 故一也円（卷三・三五頁）云舍利弗下三結意我見是利故説此言者謂見彼

世界極

12 樂壽命无量二報莊嚴之利也遂勸衆生發願生彼故云說此言

〈二四丁右〉

01 信（卷一七・六七・九頁下）云引証勸成衆雖信解前說心有少猶預極樂功德不可

言宣唯大聖

02 境恐非我分且願且恐故以証勸此有五文一以自証知見勸二引他方仏說

勸

03 ……此是初也意云我以仏眼觀明見此勝利故說彼因果汝等勿有疑

04 又（卷一七・六七・九頁下）云問有人謂云於諸淨土極樂為下何故專勸彼土因果

答云知其一未知其

05 二於賢劫中唯除釈迦余仏国土皆名淨土彼是尊時既有男女便利鳥

06 獸豈勝極樂又下八万无央數淨土莊嚴妙事皆撰在極樂豈各別土為

07 勝總撰為劣耶（卷一七・六七・九頁下）觀云明往生証此文來者為斷疑生信仏証誠一之於中

08 有二一明自証二明他証 若有衆生聞是說者应当發願等事 疑云

09 上既發願畢何重勸發願歟答上發願等境一釈欣求之由一今結成正令

10 發願也 尋云应当發願生彼国者者說別時意一歟答信（卷一七・六七・九頁下）

云此中勸前願

11 行相應兼亦勸唯發願也文略行因但云生彼々々言義兼遠近々顯由

12 行即便往生遠顯由願遂當往生（卷一七・六七・九頁下）觀云若有衆生等次勸願因唯勸

〈二四丁左〉

01 願拳初略後具足応云願行俱勸故稱讚云一切皆応任意發願如說

02 修行生彼仏土（卷一七・六七・九頁下）諸師多如水觀一也 極樂无為恐難生等事

03 疑云隨縁之義如何答隨縁也八万正教其隨縁教也然而今別取一法一指

04 其外云隨縁一也 又雜善者何等歟答念仏外諸行也此即正雜二行中雜

行也

05 又置恐之言有何意歟答修雜行欲往生一釈難生一故曰憚置恐之言一也

06 授決集（卷一七・九頁上）云恐慮之洞不是言說（卷一七・九頁上）今師簡雜善一之処必置恐之

言一給也

07 意云觀縁等說生今經不說不生一故也 又雜善何難生歟答疎遠故也

08 疎遠故力弱也故般舟讚（卷一七・四五頁中）云万行俱廻皆得往念仏一行最為尊

廻生雜

09 善忍力弱无過一日七日念（卷一七・四五頁中）教念ミ夕專復專等事 疑云經唯云執

10 持釈家有何意云教念歟答三業行中身口雖有具不具一応業必可有

11 故也 又專復專尙重意如何答苦勸也 私云上來料簡此義不爾一歟其

12 故先隨縁之言難定判一歟曰想觀釈（卷一七・二六頁中）云境縁非一等（卷一七・二六頁中）此安縁也

地想觀釈

01 二五丁右（卷一七・二六頁下）云勸發流通隨縁広說一（卷一七・二六頁中）此機縁也 花座觀釈（卷一七・二六頁中）

02 此安縁也 次雜善之言亦難定一歟礼讚序（卷一七・四三頁上）釈往生行相一无余修下

云不

03 雜余業（卷一七・四三頁上）无問修下釈（卷一七・四三頁上）云不以余來問（卷一七・四三頁上）不以貪噴來問

者

04 又難義也又下釈徳二下（卷一七・四三頁中）云无外雜縁得正念故（卷一七・四三頁中）善業業念念次下結釈

05 雜有異…修雜不至心者（卷一七・四三頁中）又弘決二（卷一七・四三頁中）云大論十二云貪著

世名不專勤

06 求…而求仏道一而為雜行一如此例非一若爾約此等義辺指善惡二業

雜

07 念仏善二云隨縁雜善恐難生一歟又般舟讚文意同之歟或如下品上生人

08 聞十二部經首題一意散乱聞ミ夕名号一心不散約此等義辺云恐難生一歟

如

09 此一与奪傍正當事也 難云若如汝所解一者選集第三章（『大正藏』卷八）云不可以少善根

10 者諸余雜行難生彼国一故云隨緣雜善惡難生……然則雜善是少善

11 根也又爾者相違如何答此難尤爾也但如上婁料簡雜善之言中有善

12 惡一中約善一辺云余善少善根歟諸師受少善根文一或約行体一余行

（二五丁左）

01 云少善一約安心一名号云少善一也堪能機前何善全不可有恐難生之義也

02 若爾者積文極衆无為涅槃界者讚嘆所生淨土一隨緣雜善者約往生修

03 因一謂難者能難也善者所難也付能難一有三一三業善行当礼讚四修

04 中无余修下不雜余業二身口衆務惡業当无間修下不以余曠業

05 來問三意地妄念当无間修下不以貪嗔煩惱來問一也善者念仏善也惡

06 難生者当一三三五乃至千中无一一意云觀經義巨念仏諸行一広積往

07 生行一礼讚一向付三業念仏一行一勸進故歟簡余行惡業等一今付名号

一

08 行二云隨緣雜善惡難生一対執名号之一法一故又經云不乱一積專復專一若不專

09 復專一設執持一名号一往生不可一歟又付此人一以口業一料簡云一余行疎雜

10 故云不生一如深心下（『散善義』卷三七）積雖可廻向得生衆疎雜行一也二

余行心散故云

11 不生一如下品上生積（『散善義』卷三七）聞經雖十二部一心散故滅罪輕等一此

二義於具足三心人

12 以与奪之意一且云不生一也三余行不具三心者云不生一如元照小經疏

（『大正藏』卷八）云

（二六丁右）

01 无正信一廻向願求等也四念仏一不具三心者云不生一如智円小經疏

（『大正藏』卷三）云等

02 閑寤願散乱称名一也經說得生者云一心不乱一積云專復專等一此約行相

一

03 得生一也又礼讚序一積不生者一（『大正藏』卷四七）云若欲捨專修雜業者希得

一二……千中无一

04 等一此約安心一積不生一也是一義於不具三心人一以実義云不生一也今

云此四義中

05 初二義假令義也容有義也後二義真義必然義也

06 倍皆然等事 疑云意如何答如七日長時倍行云也 坐時即得乃至入三賢

等事

07 疑云无生与不退有何別歟答淺深異也謂坐時无生者淺果報无生也

08 処不退也証得不退者深得生已後位不退也初住也云入三賢一故也有云

09 无生者約証理一因中說果也 ミタ侍者乃至无边觀世音等事 疑云今

10 举二菩薩一有何由歟答与諸聖衆内一先举勝一也 又无边者何等歟答

11 勢至也 百許千万数 出世等事 疑云文点并意如何答如上意云一菩薩

12 出世数也 万中无一出煩籠等事 疑云菩薩利益似无其实如何答今举

衆

（二六丁左）

01 生罪根深重之過一也 人天少善乃証六道等事 疑云人天少善者說何事

歟答

02 人天少善当難証一既証六通一哉云也 又无為六通者聖道淨土二門中何

門

03 利益歟答今分別也聖道无為也 雖得見聞希有法等事 疑云指何等

法

04 希有法一歟答大方佛法也 縱使連年放脚走等事 疑云文点并意

如何

05 答如上意設雖不鹿心懈怠^チ不成善事^チ歟 貪^チ憤^チ滿^チ内^チ胸^チ等事 疑云
 06 文点并意如何答如上意云外相^ハ勤行^ハ 内心^{トクモ}有三毒云歟 貪^チ憤^チ即是身三業等事

07 疑云身者三業之随一也何云身三 歟答設意地起貪^チ口出言^チ皆為身之利益也

08 故総云身三業一也花嚴經第四十^(卷二〇・八四五頁上)云我於劫者无始初中由貪^チ憤^チ痴^チ癡^チ身口

09 意作諸惡業无量无边若此惡業有体相者尽虚空不能容受^文

10 唯識云名身文身^文身^文意云身者於物云所依也^文也有云唯識云体依止義
 11 即为名身成唯識^(卷二〇・四五頁下)云体依聚義総説名身 念^チ仏^チ慈^チ悲^チ入^チ聖^チ聚等事 疑云

12 念仏者称念歟答爾也

13 文永五年曆九月四日子時許書了

*1 『宗学院論集』九一号、二〇一九年。

*2 『岐阜聖徳学園大学仏教文化研究所紀要』二〇号、二〇二〇年。なお、「(表)『法事讚疑芥』所引『小経』註釈書と引用回数」(三三―三四頁)において、円測『阿弥陀経疏』の項目が誤って重複していたため、ここに記して訂正する。

*3 本稿では『法事讚光明抄』を『法事讚疑芥』と呼称する。その理由については赤松・西村・佐竹前掲稿(二〇一九)一六七頁を参照された。

*4 赤松・西村・佐竹前掲稿(二〇一九)一八〇頁―一八二頁を参照。

*5 導空は「道空」と表記されることもあるが、本稿では、『法事讚下管見鈔』(神奈川県称名寺蔵、金沢文庫管理。目録番号・九二一九―一・二。)において示されている「導空」の表記を用いる。

*6 九品寺流の系譜について、例えば『法水分流記』では、以下のように示されている。



阿弥陀房と道教は長西の門弟として、導空(性仙)は道教の門弟すなわち長西からみれば孫弟子として位置づけられている。(野村恒道・福田行慈編『法然教団系譜選』一三―二五頁参照。なお本稿において扱わない諸師の名は省略して示している。)

*7 『選択集』の他には、たとえば『逆修説法』において言及が見られるが、『選択集』と同じ理解が示されている。(『聖典全書』六、一五九―一六〇頁／『昭法全』二九六頁。)

*8 本稿で引用する九品寺流諸師の記述については、便宜を図って括弧や句読点、文字囲み、傍線、訓点等を私に付した。

*9 長西は「執持名号」の釈において、称名のみならず観念を含む理解を見せている。詳しくは赤松・西村・佐竹前掲稿(二〇一九)一七四―一七五頁ならびに佐竹真城「称名寺聖教『往生礼讚光明抄』について」『仏教学研究』七六

号、二〇二〇年、六六頁―六八頁を参照されたい。

*10 〈浄土疑芥〉とは、『法事讚疑芥』を含む長西の一連の著作群の総称である。

詳しくは赤松・西村・佐竹前掲稿（二〇一九）一六七頁を参照されたい。

*11 詳しくは岸章二「金沢文庫所蔵『観経疏光明抄』玄七第五（？）同序三第一の本文及びその解説と光明抄研究の一問題」『宗学研究』巻一一、一九三五年）を参照されたい。

*12 卷三、二五丁左―二六丁右。なお、書き出しは、「又付此人以口業料簡云…」となっており、異なっているが、その後は全く同内容が述べられている。

*13 神奈川県称名寺所蔵、金沢文庫管理。目録番号：七五―六一。『阿弥陀経抄』について、詳しくは能島覚「称名寺聖教『阿弥陀経抄』について」『金沢文庫研究』三二三号、二〇〇九年を参照されたい。また、本稿での『阿弥陀経抄』引用では、出拠として能島氏の論文の頁数を示した。そのうえで、能島氏の翻刻を修正した箇所は網掛けで示し、原本の丁数も併記している。

*14 詳しくは、井上慶淳「法然門下の教学の研究―九品寺流の教学について―」『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第四〇集、二〇一八年を参照されたい。

*15 「古信作仏」：字の並びは「古作信仏」となっているが、「古」の下に挿入符号が確認でき、また「信」の右傍に入れ替え符号が見られる。すなわち、「古信作仏」となる意と考えられる。しかし、入替指示の線は「信仏」の間にあるように見えるため、「古仏作信」の可能性も想定できる。本翻刻では、「古」の下に「信」の意と判断して「古信作仏」とした。